

(様式2)



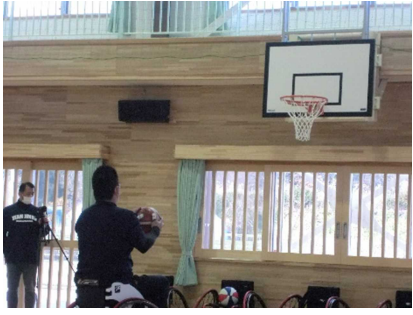
2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 静岡県裾野市立富岡第二小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生 9名 2年生 19名 3年生 12名 4年生 13名 5年生 14名 6年生 22名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学級活動) ② 行事名 (車いすバスケットボールに親しもう) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・日本代表として4期連続パラリンピックに出場した神保様から、車いすバスケットボールの指導・説明を受けることで、子供たちが車いすバスケットボールに対する興味・関心を高めると共に、インクルーシブな社会（共生社会）について学ぶ。 ・車いすバスケットボールだけでなくパラスポーツ全体への興味を高めると共に、「東京オリンピック・パラリンピック」への関心を高める。 ・講話や神保様との交流会から、目標に向かって努力することの素晴らしさを感じ取る。
5 取組内容	1 車いすバスケットボール・パラスポーツの説明、模範演技 (13:20~13:45) ・校長挨拶 ・講師挨拶 ・車いすバスケットボール及びパラスポーツの種目紹介 ・デモンストレーション   

2 代表児童（6年生）による体験試合（教職員も参加）

（13：45～14：15）

- 車いすバスケットボールのルール説明
- 車いすバスケットボール大会



3 講話「やってみるをかなえる」（14：15～14：40）

- 「障がい」とは何かということ分かりやすく
- 可能性に挑戦する勇氣
 - ・ ・ ・ ミラーの法則、日本代表、海外留学
- 自分自身にとっての夢や挑戦とは？



4 質疑応答（14：40～14：50）

6 主な成果

- 車いすバスケットボールを代表する神保様の実技・講話を、直接見たり聞いたりすることで、車いすバスケットボールへの興味を高め、「東京オリンピック・パラリンピック」への関心を高めることができた。
- この活動を通して、車いすバスケットボールの魅力を十分に感じることができた。また講演の内容から、車いすバスケットボールだけでなく、パラスポーツ全体の魅力を感じることができた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

- 貴重な機会だったので、全校児童を対象にした活動とした。
- 6年生の代表児童には、体験試合を通して、車いすバスケットボールをより身近なものに感じる機会を設けた。
- 講師である神保様の経験からの講話を開催することで、生きていく上で大切なことを、参加した児童が個々にとらえて考えることができた。また、パラスポーツ全体に対して興味、関心を高めることができた。

8 主な課題等	•今回は途中で休憩をはさむ形で90分間の活動としたが、もう少し時間に余裕をもって、より多くの児童が競技用の車いすに触れたり、体験試合に参加したりすることのできる時間を確保できるとよかった。
9 来年度以降の実施予定	•来年度の教育計画を立案する中で、検討していきたい。